

商品名 アダパレンクリーム0.1%「ニプロ」 添付文書情報

一般名	アダパレンクリーム	薬価	19.40
規格	0.1% 1g	区分	(劇)
製造メーカー	ニプロ	販売メーカー	ニプロ
薬効	2. 個々の器官系用医薬品 26. 外用薬 269. その他の外用薬 2699. 他に分類されない外用薬		

アダパレンクリーム0.1%「ニプロ」の用法・用量

1日1回、洗顔後、患部に適量を塗布する。

【用法及び用量に関連する注意】

- 就寝前に使用すること。
- 治療開始3ヵ月以内に症状の改善が認められない場合には使用を中止すること。

アダパレンクリーム0.1%「ニプロ」の効能・効果

尋常性ざ瘡。

【効能又は効果に関連する注意】

- 本剤は顔面の尋常性ざ瘡にのみ使用すること。
- 顔面以外の部位（胸部、背部等）における有効性・安全性は確立していない。
- 結節及び囊腫には、他の適切な処置を行うこと。

アダパレンクリーム0.1%「ニプロ」の副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

2. その他の副作用：

- [1] 皮膚及び皮下組織：（5%以上）皮膚乾燥（56.1%）、皮膚不快感（47.6%）、皮膚剥脱（33.5%）、紅斑（21.9%）、皮膚そう痒症（13.2%）、（0.1～5%未満）湿疹、ざ瘡、接触皮膚炎、皮膚刺激、皮脂欠乏症、眼瞼炎、皮膚水疱、皮膚炎、皮脂欠乏性湿疹、皮膚疼痛、発疹、そう痒性皮疹、脂漏性皮膚炎、皮膚浮腫、顔面腫脹、蕁麻疹、乾皮症、（頻度不明）顔面浮腫、皮膚灼熱感、丘疹、皮膚炎症、紅斑性皮疹、皮膚反応、アレルギー性皮膚炎、アレルギー性接触皮膚炎、眼瞼刺激、眼瞼紅斑、眼瞼そう痒症、眼瞼腫脹。

- [2] 感染症及び寄生虫症：（0.1～5%未満）単純ヘルペス。
- [3] 肝臓：（0.1～5%未満）血中ビリルビン増加、AST増加、ALT増加、 γ -GTP増加。
- [4] その他：（0.1～5%未満）血中コレステロール増加。

アダパレンクリーム0.1%「ニプロ」の使用上の注意

【禁忌】

1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。
2. 妊婦又は妊娠している可能性のある女性。

【重要な基本的注意】

1. 過敏症や重度皮膚刺激感が認められた場合は、本剤の使用を中止すること。
2. 本剤の使用中に皮膚乾燥、皮膚不快感、皮膚剥脱、紅斑、そう痒症があらわれることがあり、これらは治療開始2週間以内に発生することが多く、通常は軽度で一過性のものであることについて患者に説明すること。なお、皮膚乾燥、皮膚不快感、皮膚剥脱、紅斑、そう痒症が本剤の継続使用中に消失又は軽減が認められない場合は、必要に応じて休薬等の適切な処置を行うこと。
3. 症状改善により本剤塗布の必要がなくなった場合は、塗布を中止し、漫然と長期にわたって使用しないこと。
4. 日光又は日焼けランプ等による過度の紫外線曝露を避けること。

【妊婦】

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には使用しないこと（妊娠した場合、あるいは妊娠が予想される場合には医師に知らせよう指導すること）、動物実験において、経皮投与（ラット、ウサギ）で奇形の発生は認められていないが、過剰肋骨の発生頻度増加が報告されており、経口投与（ラット、ウサギ）で催奇形作用が報告されている。

【授乳婦】

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること（皮膚外用時のヒト母乳中への移行は不明であり、動物実験において、経口又は静脈内投与（ラット）で乳汁中へ移行することが報告されている）。

【小児等】

12歳未満の小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

【適用上の注意】

1. 薬剤使用時の注意：
 - 1) 他の刺激性のある外用剤と併用する場合は、皮膚刺激感が増すおそれがあるため注意すること。
 - 2) 外用としてのみ使用すること。
 - 3) 切り傷、すり傷、湿疹のある皮膚への塗布は避けること。
 - 4) 眼、口唇、鼻翼及び粘膜を避けながら、患部に塗布すること。眼の周囲に使用する場合には眼に入らないように注意する（万一、眼に入った場合は直ちに水で洗い流す）。

【取扱い上の注意】

凍結をさせないこと。

【保管上の注意】

室温保存。



薬学をはじめとする専門知識と情報処理技術が実現する高い信頼性と豊富な情報量

医薬品データベースの決定版 『 DIR 』

Copyright© 2005-2025 e-pharma All rights reserved.